

駒ヶ根市文化財

名称	駒ヶ根観音堂
種別	歴史資料
所在地	赤穂北割一
所有者	駒ヶ根観音堂保存会
説明	<p>駒ヶ根高原菅の台、バス停の近くにあるこの観音堂は、総ケヤキ造で 2.7m 四方、高さ 3.3m で、正面に向拝(こうはい)つきの木造仏堂である。</p> <p>棟木に「宝暦六歳(1756)丙子七月七日奉造立観音堂 大工上伊奈八手邑 竹内権之倫 願主 鹿塩邑 大島彦之濤之 雄角之親」とある。この観音堂は、元大鹿村鹿塩市場にあり、大鹿山林の管理運営の特権を与えられていた大島家が土地の平安を祈願すると同時に山林作業で亡くなった人たちの供養のため建立したもので、古くは鹿塩観音堂と称されていた。その後、大島家から譲り受け、駒ヶ根観音堂保存会の手により宝暦年間創建時そのまま移築復元したものである。昭和 48 年 7 月 26 日に、遷座落慶法要(せんざらっけいほうよう)行われた。</p> <p>観音像 31 体</p> <p>堂内に安置されている観音像は、京都・大阪等 2 府 5 県にまたがる西国(さいこく)三十三札所(ふだしょ)寺院の本尊を擬して彫られたもので、像の背面に札所番号と寺院名が朱書されている。なお、現在は 33 体中 2 体を欠き、31 体である。</p> <p>厨子に入った千手観音(札所 5 番 大阪藤井寺 蓮台共 49cm)を中央上段に据え、その前に、十一面・馬頭・如意輪・准胝(じゅんてい)・不空羂索(ふくうけんじやく)・聖(しょう)観音の各種観音が安置されている。それらの像形は、立像(蓮台共 35cm)21 体、座像(蓮台共 30cm)9 体である。</p> <p>5 番の千手観音及び 27 番如意輪観音(兵庫姫路書写山円教寺)の台座裏に、「信州飯田大横町 大仏師 井出右兵衛運正作 宝暦七年(1757)六月廿一日」と墨書銘がある。このことから井出運正がすべての像を製作したというより、井出運正を中心とする一門の手になるものと考えることが妥当であろう。</p> <p>飯田における井出仏師の始まりは、元和 3 年(1617)に飯田へ城主として移風された脇坂安元が、お抱え仏師として佐久に在住していた井出幸蔵(飯田井出仏師 初代 1621 没)を招聘したことに始まる。井出仏師は大仏師運慶派の流れを汲むとされている。井出仏師が飯田に定住したのは、三代正了の時と云われ、井出運正はその子で四代目に当たり、特に優れた作品が多い。運正は明和 7 年(1770)に没した。</p> <p>運正の作品は上下伊那に多くみられる。駒ヶ根市内では、大御食神社の御神像が運正の作である。この観音像は、像体・台座・光背ともに厚地の金箔(きんぱく)仕上げで、頭部は紫紺、唇は朱で彩色され、総じて相貌秀麗(そうぼうしゅうれい)にして、端正な作風である。</p>

駒ヶ根市文化財



三十三観音像



観音堂